

森林環境教育 福智町立上野小学校 (4年生9人:クラフトと水と森の話)

昨日までの大雨が止み、久しぶりのお日様の下、町役場の広報担当者も来られ、子どもと一緒に汗をかきながら森林環境教育を楽しみました。上野小学校は福智山、虎尾桜、福智山麓公園などを裏手に臨む静かな田園地帯に位置しています。

ここ北部九州は昨日まで大雨による土砂災害の警報が各地で発令されていたこともあり、急きょ、水の役割・怖さなどの話も取り入れ森林環境教育を実施しました。

はじめに、「水の循環」と題して、雲から雨が降り、川から海へ、そして、蒸気となり再び雨になることを伝えました。その雨の量が多くなると各地で洪水が発生することを伝えると共にその被害を少しでも和らげようとしている森林の役割も伝えました。



児童数が9人でしたので、見本をじっくり見てもらい、自分なりの構想を立ててからクラフトを開始してもらいました。そのことが良かったのか、皆さん目的のものを早々と完成させていました。可愛らしいドングリに囲まれた表札、トコロが棲む森、2、3階建てのトーテムポールなど大人の発想では現れないものばかりが次から次へと完成しました。最後に、先生から一人一人、作品を写真に撮ってもらい歓声を上げていました。



森の話では、福智町で生活していれば知っておかなければならない「虎尾桜」の話をしながら、日本の桜について話を展開しました。

ふりかえりでは山の土は水をためることや樹木の根っこが山崩れに効果があることがわかりましたとの嬉しい一言も聞かせてもらいました。また、私たちスタッフが子どもたちに伝えたかったことを先生がその都度、黒板に書き綴って下さったので、子どもたちの理解も早く、感激しました。最後に校長先生とも話をしましたが、森林環境教育も他の学問と同じでスタッフ、先生、管理職の先生含めた全員の熱意が効果を大きくすることを再認識しました。(宮本、中村)